

川口きゅうぼりリハビリテーション病院

「脳卒中及び心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法（循環器病対策基本法）」が昨年10月末に施行通知されました。これを受けて埼玉県でも推進協議会が組織され現在活動を開始しています。この中で脳卒中の救急対応システムについては、循環器救急対応システム（CCUネットワーク）の県全体での組織化と急性大動脈解離対応病院の体制化の2点が課題となっています。つまり急性脳卒中、急性心筋梗塞、急性大動脈解離、そして急性心不全などへの救急対応システムの重点化が国策となり、各都道府県では現在医療体制の役割分担の構築が必要となっています。

川口市が含まれる南部医療圏を例にとれば、脳卒中や循環器救急疾患疑いの傷病者の救急搬送先は限定されることになり、これらに対応可能少数の急性期病院への患者入院負荷が増加することが想定されます。その一方、急性期病院はこうした受け入れ患者の社会復帰に向けたリハビリテーション等に十分な時間と人手を割くことが困難であり、この結果は退院時あるいは転院時の患者ステータスの不良の原因ともなることは想像に難くありません。急性期重症患者の良好な社会復帰には、後方支援の継続治療とリハビリテーションが同時に体制化されることが必要です。

結論として、高齢化に伴い増加する脳疾患や心疾患のリハビリテーションや後方支援の役割を担うために、回復期リハビリテーション病床や地域包括ケア病床を増やす必要があると改めて考えています。現在、「久幸会 川口きゅうぼりリハビリテーション病院（新病院）」は建設開始前の状態にあり、上述の社会環境の変化への病院の構造及び医療整備の修正対応が可能な状態にあります。医療環境の変化に伴い、新病院の診療内容（病床構成）を循環器対策基本法とそれを受けた埼玉県循環器病対策協議会のプランに沿った診療の棲み分けを、より明確化したいと考えています。回復期を担う役割をより明確にする、つまり具体的には新病院が期待される回復期リハビリテーション病床数と地域包括病床数を増やしたいと考えています。埼玉県内における循環器病対策については、医療整備課の主導のもとで救急医療体制（ネットワーク）の充実を加速してゆくものと考えます。脳血管、循環器疾患の救急患者が特定の条件を満たした急性期病院に、より円滑迅速な搬送が可能になります。従って、新病院のなすべき役割は急性期を脱した患者の受け入れを行い、急性期病院が新規の救急患者を受け入れることができるように後方支援することであると考えます。尚、病院長予定者である船崎俊一医師は、埼玉県脳卒中及び心臓病その他の循環器疾患対策推進協議会委員としてこうした状況を検討するメンバーの一人であります。

また別の観点からも、病床割合の変更は重要な意味を持つため説明させていただきます。川口市での公募プロポーザルで建設決定を頂いて以降に、私たちは想定していなかった建設等コストの増大を経験し、これが大きな問題ともなっています。建物解体（大量のアスベスト除去）や地盤（約700本の杭で地盤を支えていた）改善に予想以上のコストが増大し、収支を改善する場面に直面しています。借入先である福祉医療機構からアドバイスをいただき、病床機能を変更することで上述の社会環境の変化への病院の構造及び医療整備の修正対応が可能になります。結果として、回復期を担う病床形態をより明確にすることで、地域医療連携の役割を果たし、収支計画も改善し・経営の安定化が可能になります。以上から下記のように変更をお願い致します。

	変更前	変更後
回復期リハビリテーション病床	90床	100床
地域包括ケア病床	50床	70床
一般病床	40床	10床

※下記の引用データは、川口市ホームページ（川口市消防局消防年報 2020 と救急統計）から抜粋しております。

川口市救急活動状況（平成 31 年中）

川口市人口 607,105 人（令和 2 年 1 月 1 日現在）に対し救急出場件数 30,583 件（前年比 780 件増）と年々増加しています。その内搬送人員 26,225 人（前年比 840 人増）と増え、20 分に 1 人を搬送している状態です。1 週間の中で多いのは月曜日（4,610 件）で時間帯は午前 10 時～午前 12 時（3,443 件）です。曜日で少ないのは木曜日（4,239 件）、時間帯は午前 2 時～午前 4 時（1,201 件）です。

区分	出場件数		搬送人員	
	件数	対前年比	件数	対前年比
平成 22 年	21,472	1,707	18,251	1,190
平成 23 年	22,466	994	19,078	827
平成 24 年	24,916	2,450	21,113	2,035
平成 25 年	24,882	-34	21,318	205
平成 26 年	25,578	696	21,894	576
平成 27 年	25,739	161	22,098	204
平成 28 年	27,393	1,654	23,625	1,527
平成 29 年	28,835	1,442	24,782	1,157
平成 30 年	29,803	968	25,385	603
平成 31 年	30,583	780	26,225	840

事故種別 出場件数及び搬送人員

事故種別	出場件数			搬送人員		
	平成 30 年中	平成 31 年中	前年度比	平成 30 年中	平成 31 年中	前年度比
急病	19,853	20,589	736	16,991	17,720	729
交通事故	2,412	2,391	-21	2,125	2,097	-28

一般負傷	4,339	4,459	120	3,756	3,822	66
転院搬送	1,704	1,834	130	1,692	1,823	131
その他	1,495	1,310	-185	821	763	-58
計	29,803	30,583	780	25,385	26,225	840

川口きゅうぼらリハビリテーション病院では、地域包括ケア病床と一般病床で救急対応致します。そして変更後も「脳卒中及び心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法（循環器病対策基本法）」に期待される後方支援病院の役割を担い地域医療連携を果たします。

<地域医療連携について>

地域医療連携の中で私どもは回復期を担います。

また地域包括ケア病床と回復期リハビリテーション病床、一般病床では、これらの急性期を終えた方々の後方支援医療機関としての役割の他に、在宅や介護施設で療養中の高齢者等における急性増悪とリハビリテーションの対応を行います。その中で特に当院が得意とする中等度や軽度の心不全や肺炎など治療を積極的に行います。

前表にあるように、救急出場件数も搬送人員も年々1000人近く増えています。平成30年度(2018年度)川口消防局管内での救急搬送人員数25,385人のうち2,060人が”老人施設”からの要請でした。内訳は軽症492件、中程度1,195件、重症319件、死亡54件。平成31年度はさらに840人増え26,225人。基幹病院での高齢者受け入れの増加は本来の機能を果たせなくなる危険性を孕みます。平成31年度も同様であり、転院搬送や川口市外への流出はさらに増えています。

市外搬送人員状況（平成31年度）

	市外搬送人員（前年度比）	パーセント
東京都	2027（+222）	46
戸田市	1067（-101）	24
さいたま市	641（-25）	15
草加市	203（+30）	5
蕨市	114（-42）	3
越谷市	244（+14）	5
その他	112（-21）	2
計	4408（+79）	4408人÷26225人≒17%

上記表にあるように、平成31年度川口市における救急患者が川口市で対応できずに市外へ流れている数は、4408人で前年度比プラス79人です。当院も救急告示病院として役割を果たす必要があると考えています。

ここでさらに年齢別を確認すると、下記表のように当然高齢者が全体の半分以上を占め、中等症から軽症がそのほとんどを占めます。全年齢の中でも高齢者の中等症と軽症者が約半分を占めている状態であり、この問題に対応しないと救急対応も地域連携も解決に至りません。

(年齢区分) 新生児：生後 28 日未満の者、乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者、少年：満 7 歳

以上満 18 歳未満の者、成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者、高齢者：満 65 歳以上の者

年齢区分別 事故種別搬送人員 (平成 31 年度)

年齢区分・事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
新生児	15	0	2	71	88
乳幼児	999	64	367	119	1549
少年	421	201	151	132	905
成人	5,746	1273	770	1059	8848
高齢者	10,539	559	2573	1205	14835
合計	17,720	2097	3822	2586	26225

年齢区分別 傷病程度別搬送人員 (平成 31 年度)

年齢区分・傷病程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
新生児	0	15	67	5	1	88
乳幼児	2	13	302	1232	0	1549
少年	2	20	171	712	0	905
成人	23	535	2421	5867	2	8848
高齢者	148	1647	6909	6131	0	14835
合計	175	2230	9870	13947	3	26225

事故種別 傷病程度別搬送人員 (平成 31 年度)

程度・事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
死亡	147	3	12	13	175
重症	1434	116	240	440	2230
中等症	7117	235	1010	1508	9870
軽症	9020	1743	2559	625	13947
その他※	2	0	1	0	3
合計	17720	2097	3822	2586	26225

最後に重ねて、私どもの役割は急性期を脱した患者の受け入れを行い、急性期病院が新規の救急患者を受け入れることができるように後方支援することにあると考えます。川口きゅうぼりハビリテーション病院は後方支援病院としてポストアキュート機能を担い、医療センターや済生会を始めとする川口市内急性期病院からの治療継続を行います。また、救急治療などのため自治医大さいたま医療センター、帝京大学病院、東京女子医大病院など他の医療圏で治療を受けた川口市など南部医療圏に在住する患者のポストアキュートの診療も行い、後方支援病院として役割を担います。さらに、川口市内には介護老人福祉施設（28施設）及び介護老人保健施設（9施設）始め、近年急増しているサ高住や有料老人ホームそしてグループホームなども多く、救急告知病院として中等度～軽度の心不全、肺炎への救急対応も地域包括ケア病床・一般病床で行います。重ねて、回復期を担うことで地域医療連携・地域包括ケア連携に貢献してまいります。